

工学部工業化学科の新年度の対応について

【ご意見・ご要望】

別添参照。

【回答】(回答日:2021年3月31日)

(回答者:工学部)

工学部では、学科ごとに事情が異なるため、当該の工業化学科の学科長に照会し、下のとおり、回答をいただいております。

(以下、工業化学科長からの回答)

現1回生の、この一年の困難は想像に難くなく、感染を広げないための結果として、1回生諸君に苦難を強いたこと、私も心を痛めておりました。

工業化学科では2回生前期ではまだコース配属が行われていないため、2回生配当科目の履修対象者は1学年で235名以上となります。大学科ゆえの困難です。このため、京都大学が示す対面講義実施可能とされるラインである「講義室収容人数の2/3を収容可能な講義室」の確保ができず、現在の予定として、オンライン講義とせざるを得ませんでした。

できるだけ対面授業に持っていきたいのですが、講義室収容定員の制約ゆえに、また、大学がそれに足る施設を物理的に有していない現状から、皆さんに苦節を強いてしまったことと 생각합니다。

この学生数ゆえの困難は新1回生も同様です。ご指摘に対応すべく、その後いろいろ調べましたが、クラスに示された工業化学科の講義形態については、不完全な表記が散見されます。

例えば、新1回生の基礎物化や基礎有機は「完全対面」というわけではなく、状況次第ですがハイブリッドを想定しています。一方で、新2回生配当の有機基礎及び演習などは「オンライン」とありますが、これは逆に、当初はオンラインでのスタートでやむを得ないが、感染状況と、登学を希望する学生の数によっては、ハイブリッド型の講義形式に変えていく想定があります(修正版を近々に掲示し直します)。

つまり、感染拡大状況が変わり、講義室収容人数についての制限が緩和されれば、対面講義へのすみやかな移行も検討しています。

また、現在、オンライン講義となっている科目について、それぞれの曜時限において講義室を確保しております。感染防止を徹底しての利用となりますが、それぞれのクラスごとに用意しておりますので、オンライン講義を受ける部屋として利用していただけます。上記の講義室の使用を希望される場合は、工業化学科へ連絡ください。(人数に制限がありますので、ご希望にそえない場合もあり、9号館西棟3階の自主学習室での利用になる場合もあります。)

各教員や事務職員は、限られた講義室定員と制約の中で、なんとか、対面の講義を加えていけるように、知恵を絞ってくれていると思います。皆で、なんとか、いい方向へ進んで行ければと願っています。

【No.1】(投稿日:2021年3月25日)

工学部工業化学科の新2回生の専門科目は全てオンラインで行われると聞きました。現在京都大学は全授業の対面での実施を予定しているはずであり、また新2回生は1回生の時分にほぼ全ての授業をオンラインで受け、大学での人間関係の構築が難しく孤独な状態にある人も多いはずで、それにも関わらず全ての授業をオンラインでするのは新2回生を虐げていると言えましょう。一体何故全ての授業をオンラインにするのでしょうか。

【No.2】(投稿日:2021年3月26日)

工学部工業化学科への問い合わせです。

令和3年度前期開講の工業化学科の専門科目が、ほとんどオンラインのみで行われる運びとなったことを聞きました。特に、新入生はすべて対面が可能である一方、新2回の専門科目はすべてオンラインのようです。全学の基準では「原則対面」という発表があっただけに、この対応に失望しております。実験の特殊性から、ハイブリッド授業を行うことは難しいのだろうとは思いますが、他回生は対面授業が可能であるのに、2回生だけが対面授業を行えない理由を示していただけますでしょうか。

他学部ではありますが、同じ大学で学ぶ同級生の嘆きをただ見ていることはできず質問させていただいた次第です。